

# 「フラテ」原稿



## 2002年

私の知るかぎりずっと以前から、ここ認知行動学分野では「脳の機能の解明」が教室員の共通の目標となっています。脳の機能そのものをその構成単位の細胞・分子生物学的特性から帰納的に理解することは不可能であるという認識のもと、ここでは一貫して「システムの」なアプローチが採用されています。最近では慢性動物を用いた研究をはじめ、健常人のfMRI、小児や神経疾患での定量的な行動解析、計算論的な手法を用いた研究などがおこなわれています。当分野では伝統的に研究の対象を狭めることをあえて避けてきたため、各人が自分の興味にあわせて研究を進めており、これがこれまで多くの優秀な研究者を輩出してきた理由のひとつなのでしょう。ある意味、民主的といえるかもしれませんし、大講座制をある程度先取りしてきたともいえるかもしれません。具体的に強くやりたいと思っていることがある学生・医師・研究者にはおすすめです。

さて、例によって自己紹介を募ったので順にご紹介します。

### まずは福島菊郎教授から…

「大学院医学研究科に今年度から修士課程が開講され、医学研究科はますます研究の充実が期待されています。この一年間、数名の教室員の移動がありましたので、当分野の教室員の近況につき、順不同でお知らせします。田中真樹助手が講師に昇格し、Sergei Kurkin研究員が2月に助手に採用されました。耳鼻科の武市紀人各員研究員は9月1日からシアトル、ワシントン大学霊長類研究所のフックス教授のもとに留学しました。4月からは新たに大学院生として笠原敏史君(北大医療短大助手)が社会人入学 しています。海外との研究交流として、昨年10月に、シカゴノースウエスタン大学医学部のPeterson教授が10日間、今年の5月にはシアトル、ワシントン大学霊長類研究所のChris Kaneko博士(Research Professor)が1週間、こちらでの前頭眼野および補足眼野の共同研究に参加しました。さらに8月の1ヶ月間、アトランタのエモリー大学のMustari準教授がMT/MST野の共同研究に参加しました。現在、教室員は、上記メンバーの他、山野辺貴信助手、赤尾鉄平大学院生と佐藤史江大学院生(リハビリ医学)、天野和子主任事務官と安田円共通技官がおります。当講座は伝統的に脳の機能をシステム的手法により調べてきています。私どももこの伝統を継承し、機能的神経回路とニューロンレベルでの脳機能の理解を目指して、関連する脳の複数の領域に再現される信号の比較とそれらの領域の化学的不活性化により、それぞれの領域の機能分担を調べています。」

う～ん、たくさん書いていただき非常にたすかります。もうこれで終わりにしてもいいような気もしますが、せっかく皆さんから原稿をもらったので…

### 山野辺貴信助手

「最近、スパイク列の新しい解析法を考案中です。はじめて実際の神経細胞のスパイク列をみたとき考えたことを形にしようと奮闘しております。すでに、第一報目の論文ができましたので、現在はそれをさらに拡張し、培養神経細胞から得られるデータおよび動物の慢性細胞外記録から得られるデータに適用できるよう奮闘しております。研究だけでなく日曜日にはインラインスケートをして楽しんでいます。」

山野辺先生は工学系の出身ということもあり、計算論的神経科学の立場からの発言が多く、よい刺激を与えてくれています。

### Sergey Kurkin助手

[I am living in Japan for eight years, but my Japanese is still at eight month old baby level. Why Japanese babies are ten times better in language than me? Because they do not have a computer. Computer takes all your time. Making the programs is a wonderful game I am playing all my life. Football is another game I love a lot, but unfortunately I am too heavy now to play.]

ということですが、ロシア語と英語とカタコトの日本語が話せれば十分だと私は思います。ゲーム感覚で仕事(プログラミング)ができるのはちょっとうらやましいですね。この前のワールドカップで日本がロシアに勝った次の日は実は結構気をつかいました。

## 宮本環研究員

「機能的磁気共鳴画像(fMRI)をやっているポストドクです。あくまでも正しいfMRI(撮像法や後処理)にこだわり続けているせいか、まだ論文が出なくて肩身が狭いのが悩みの種です。急がば回れということもありますので、自分の信ずるところに行くのがいいと思っています。北大では脳科学における機能画像の進展がまだ不十分との指摘もあり、この分野で少しでも科学に貢献できればと願っております。」

宮本先生の精神科医らしい視点からのコメントはいつもわれわれを感心させています。fMRIの研究も軌道にのってきたようで新しい話を聞かせていただけるのが楽しみです。

## 武市紀人研究員

「この教室には、共同研究、大学院、研究員として通算4年近くお世話になってきました。耳鼻科との臨床・基礎の掛け持ちはなかなかハードでしたが、福島教授をはじめとする教室の皆さんの協力で楽しく有意義に過ごせました。現在、福島教授の計らいでシアトルのワシントン大学に留学中です。2年後には研究の成果とイチローのサインを持ち帰る予定で頑張っています。」

わざわざシアトルから原稿を送っていただきました。2年後が楽しみです。イチローにも頑張ってもらいたいもんです。

## 佐藤史江大学院生(リハビリ医学)

「武市先生がこの秋から留学されており、それまで毎日刺激を受けていた私としては、現在、平和な毎日を送っており、少し寂しくもあります。さて、ここに机を並べられるのも残りわずかなようです。しかし学ぶべきことがたくさん残っており、時間をつくってこれからもお邪魔したいと思っています。よろしくお願いします。」

そうですね、いつでも遊びに、いや、勉強しにきてください。

## 笠原敏史大学院生(医療短大助手)

「初めまして。今年から、博士課程院生として入学した32歳、男、笠原です。出身は北海道であります。これまで理学療法士として病院で勤務し、現在、母校であります医療技術短期大学部に勤務しております。理学療法士としては、主に中枢神経疾患に対するリハビリテーションに関わって参りました。これから第2生理前の廊下で皆様にお目にかかることがあると思います。一生懸命頑張りますのでどうぞよろしくお願いいたします。」

笠原先生はこのあたりでは珍しい穏やかな口調で話をされるので、「2生理の癒し系」とよばれています。今後、理学療法士としての豊富な臨床経験を生かしたよい研究を展開されることでしょう。

## 赤尾鉄平大学院生

「皆様はじめまして、江別市にある酪農学園大学というところからやってきました。この教室の研究は非常に面白くやりがいのあるものと実感しています。動物を用いた研究がメインですので初めのうちはどう付き合ったらよいか戸惑いましたが、慣れると皆個性的で非常に知的で驚かされることばかりです。教室の進行についていけずメンバー一同に迷惑ばかりかけていて研究以前の問題もありますので研究共々頑張っていきたいと思っています。」

## 安田円技官

「今年もこの季節がやってきたようですね。最近は何かにつけて「もうあれから1年かぁ」と思うようになりましたが、フラテの原稿書きもその内の1つです。特に何かを成し遂げたというような実感もなく、ただ時間だけが流れていってしまったような気がします。「これではいけないわ」と反省しつつも、ここまで来てしまいました。これと似たような事を何年か前にも書いたかもしれません。うーん…。成長していないってことでしょうか。」

いやいや、安田さんは成長してとっても強くなったような気がしますよ…(いい意味で)

天野和子秘書官はどんなに忙しいときでも育ちの良さがうかがわれる丁寧な口調をくずすことなく仕事をこなしています。最近クルマの教習所に通っているとの未確認情報がありますが、どうなったんでしょう？

今年は非常勤講師として元杏林大学教授の伊藤寛志先生、札幌医大の當瀬規嗣先生、電子研の下澤楯夫先生、循環器内科の太田俊郎先生に講義の一部を担当していただきました。毎週の抄読会には医療短大の福島順子先生、耳鼻科の津布久崇先生が参加してくださっています。その他教室の集まりには眼科の新明康弘先生、大橋勉先生、陳進輝先生、神経内科の蕨建夫先生、吉田敏一先生、精神科の三村博通先生がいつも参加して下さいます。

というわけで最後に私、田中は留学から帰ってはや一年が過ぎ、最近ようやく実験を始めることができるようになりました。しばらくは動物の運動性視床に的をしぼって研究をすすめていきたいと考えています。

(文責:田中)